

## 論文審査の要旨

|  |                |       |      |
|--|----------------|-------|------|
| 博士の専攻分野の名称   | 博士（学術）         | 氏名    | 吉田 勉 |
| 学位授与の要件  | 学位規則第4条第①・2項該当 |       |      |
| 論文題目   |                |       |      |
| 19世紀「鉄と蒸気の時代」における帆船  |                |       |      |
| 論文審査担当者  |                |       |      |
| 主査   | 教授             | 市川 浩  |      |
| 審査委員   | 教授             | 吉村慎太郎 |      |
| 審査委員   | 教授             | 布川 弘  |      |
| 審査委員   | 准教授            | 隠岐さや香 |      |
| 〔論文審査の要旨〕  |                |       |      |
| <p>18世紀末に登場した蒸気船は、気象・天候に大きく左右されていた帆船主体のそれまでの海運のありかたを一変させ、「新たな世界経済（D.R. Headrick）」の成立の契機となったとも言われる。しかし、海運の主役が帆船から蒸気船に移行したのは19世紀末であり、その交替には1世紀近い年月を要している。</p> <p>従来の研究（Douglass North, Gerald S. Graham ら）はその原因を船用蒸気機関の未成熟にもとめるものが多いが、吉田氏は帆船の側における技術進歩に注目し、クリッパー船の登場に刺激された木鉄交造船の登場と普及や、蒸気船に有利と思われていたスエズ運河開通に危機感をもった帆船船主たちによる、そのひとつひとつは小さな改良でありながら、全体として大きな費用低減効果をもった技術改良の積み重ねとそれらの効果を、船舶保険における保険額等の査定のために設けられ、船舶の技術情報を数多く収集していた「ロイド船級協会」の資料、英国議会資料等同時代の一次史料を基礎に詳細に検討している。</p> <p>また、その際、同じく複雑、かつ重層的な技術複合体でありながら、蒸気船に比べて、部分改良の成果が他の技術的要素との整合性・均衡を俟たず、ストレートに顕現した帆船の技術的特徴を指摘している。</p> <p>このように、吉田氏は、これまであまり注目されることのなかった19世紀における帆船の技術進歩を取り上げ、それを蒸気船の技術動態と絶えず相関関係において把握することによって、冒頭に述べた近代技術史上の大きな謎の解明に、新しい視座から重要な貢献をなしている。</p> <p>本研究は、19世紀船舶技術の事例研究にとどまらず、新技術の登場が旧技術の側での“抵抗”を喚起し、新技術への移行を緩慢ならしめた事例を探ることで、従来の単線的な技術発達観に挑戦し、技術発達への見方を豊富にする重要な実証的研究となっている。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p> |                |       |      |

備考 要旨は、1,500字以内とする。